

日 刊
ア
新東京

No.753

2011年
 11月1日(火)

日本郵政グループ
 労働組合
 新東京支部
 広報部

03-5606-6784
 内線4353

新東京支部東北復興企画

ボランティア

七ヶ浜

10月21日(金)～10月23日(日)にかけて宮城県にある七ヶ浜にボランティアに行きました。今回のボランティア派遣は、新東京支部として東北大震災以降、復旧復興に向けて継続した取り組みを行うことを決め、今後支部独自でボランティア行動を企画実施する為の先遣隊と位置付け、阪神淡路大震災から震災被害復興ボランティアに積極的に参加された一普分会の箱崎さんをリーダーに、本間さん、高橋さん、執行部から萩原、菅家が参加しました。通常のボランティアバスツアーに申し込み、一般ボラ

ンティアと一緒に現地に行きました。

21日の24時過ぎに東京を発ち車泊、22日早朝現地に到着、ほとんど休む間もなくボランティアという過密なスケジュールでした。当日は、荒天のため、本来なら屋外でのボランティア作業は中止になる状況でしたが、駆けつけたボランティアの方が300名を超えた事もあり屋外作業を実施することとなりました。



あらかじめ七ヶ浜ボランティアセンターのホームページで土嚢袋が不足していることを知り、東北義援金カンパ(禁煙時間違反金)で土嚢袋

を購入し七ヶ浜ボランティアセンターに寄付しました。



初日の作業は、津波に流され土台だけになった家屋の草抜きと瓦礫拾いでした。大津波から長い月日が経過したことを物語り草が大きく成長していて、根をしっかりと地につけていたため抜くのも大変でした。二日目の作業は、近直家が建つ土台の瓦礫拾いでした。昨日の天候とは打って変わり快晴で熱中症対策が必要なほどでした。震災直後のテレビで見た光景とは違い、大きな瓦礫はほとんど片付けられ家の土台だけが残る現地で、家屋建設を目直に控えた土台の整地をしてい

ると、復興に向けた足音が聞こえるような気がしました。作業場での写真撮影は絶対禁止のため作業風景をお見せできないのは残念にも思いますが、被災地の方々の心情を考えれば当たり前のことと感じます。新しい街並みが出来上がった頃、またこの地を訪れ、この町の強さと素晴らしさを感じたいと思いました。

最後に、今回初めて一般のバツイアーでボランティアに参加しましたが、本当にたくさんの方が東北復興に向けて頑張っていることを実感しました。また、企業団体でも多数活動に来ていました。KDDIやNTTコムウェア、更には栃木局長会の看板でボランティアに参加していました。来年の春には、J P 労組新東京の名の下で復興支援を企画実施することを参加者全員で決意しました。

《今回ボランティア行動に参加した感想が寄せられましたので紹介します》

今回はお疲れ様でした。

そして、ボランティアの話を持ってきて貰って感謝します。 本当に参加して良かったです。

東京にいと、どうしても3.11の震災の現実味が薄れてきていると感じます。テレビでは津波の映像が流れ、瓦礫だけになった被災地の映像が映ります。不謹慎かもしれませんが、どこかCGを使った映画を見ている気分になってしまう人達が少なからずいると思います。 私も恥ずかしながら、少なからずそういう気持ちがある心の中にあった一人だと思いましたが、今回のボランティアで現実に戻されました。

瓦礫の撤去で土の中から出てくるその家に住んでいた人達のお茶碗や口紅・衣服、割れた屋根瓦。 ぐちゃぐちゃになったガードレールや道路標識。

たった一人だけの参加でも、被災地にボランティアに行きたいと参加した多くの人達。 一度被災地の生の現状をボランティアで知り、2度・3度と今度は友人や会社の同僚と参加する人達。 ボランティアに参加した時、心に思うところがあり、普段の仕事とは関わりはないけれど被災地支援の一つとして旅行の添乗員をかって出る人。

今回のボランティアで経験した事、テレビでは報道されない事実を今度は私が組合員に話し伝える事が、現地から帰ってきた私が出来る被災地支援の一つだと思います。

木々の枝葉の如くボランティアの波をこの新東京で広めて行きましょうよ！！
長くなりましたが、自宅に着いたことも報告して、お疲れ様でした。

2011年度「連合・愛のカンパ」へのご協力をお願いします！

本日より11月末までの間、「連合・愛のカンパ」活動を実施します。新東京支部では、例年100円程度を組合員の皆さんからお預かりし、NPO・NGO団体等の事業、プログラムへの支援、および自然災害等による被災者への救援・支援に役立てられています。分会役員等がお声かけいたしますので、ご協力をお願いします。

日 刊

JP 新東京

No.754

2011年
11月2日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

英知を結集、年繁期を乗り切ろう！！

分会統合後初の分会会議開催（一輪送分会）

10月20日（木）、事務棟2階研修室において旧1・旧2輪送分会統合後初の分会会議を開催した。

今会議の最重要課題は、分会統合後の分会運営に際し分会役員の選出とした。「到着・差立の力と知恵を合わせ、無理や無駄のない作業環境を作ろう」を合言葉に分会4役は到着2名・差立2名で選出した。

次に、来年東京で開催される第5回定期全国大会に向けて組織力の強化は避けて通れず、組合加入者拡大に全力で取り組むことの意味を一致を確認した。

更には、未だ迷走している郵政改革関連法案の早期成立にむけて今私達が出来ること、「みらい研」の理解浸透・加入者拡大行動を取り組むことを確認した。

その後、職場の問題点を共有し解決策を話し合うこととした。新たな施策展開により職場環境は日々変化する中、組合員の精一杯の努力の下で網渡りながらも業務運行を確保しているが、限界も近いことがこの会議で露呈されたと感じる。とりわけ、65歳定年以降の要員不足及び要員配置の問題、日勤帯で中勤が配置されない事、ほとんど休憩時間の移動で到着処

分会4役紹介

○分会長
千葉 哲三

○副分会長
井上 正弘
栗原 哲也

○分会書記長
唐口 浩二

※幹事は決まり次第掲載させていただきます。

理対応。そのしわ寄せが、勤務帯一日中続く現状。また、正社員登用は評価できる施策としながらも、登用後の穴埋めがされず、夜間帯の要員が減少したまま放置されることで、夜間の作業に無理が生じている。また、輪送容器の不足等の必要備品の不足による作業効率の低下も要員不足に大きく起因している。郵便再生への意味を理解しつつも、現状要員で作業の限界が現実問題として起きている。反面、差立でほとんど活用されず運休となる既定JR便（高松2本、新大阪、広島、岡山）が検証もなく放置されている実態は郵便再生の意味と大きくかけ離れていると思われる。最後に、到着・差立が一つの分会となった力を十分に発揮し、真に組合員のための分会活動を目指し頑張っていくことを誓い閉会した。

東京地方女性フォーラム企画

参加者急募!

女性フォーラムカレッジ
クリスマスリース作り&交流会

日 程 2011年11月27日(日) 12:30~受付
13:00~17:55(終了予定)

会 場 第一ホテル東京5階「ラ・ローズII」
(新橋駅地下通路直結 徒歩2分)

内 容 第1部 クリスマスリース作り
第2部 交流・意見交換会

持ち物

花を切るハサミが、
キッチン用のはさみ

対 象 女性組合員

*お子様連れOK!(小学生以下別室で預かります)

参 加 費 1人1,000円(当日徴収)

参加費は
全額東日本大震災の
義援金とします

申 込 締 切 2011年11月17日(木)

お問い合わせ・お申込みは支部または分会役員まで・

FC新東京(フットサルサークル)よりお知らせ!!

東京地本主催第3回フットサル大会開催\(^o^)/

日 ; 2011年11月13日(日)

場所 ; フットサルアリーナ豊島園

※開始時間・組み合わせは後日お知らせ。

○第2回大会では2勝と年々勝率UPのFC新東京。
今回は3勝目指して頑張ります。また、随時部員を
募集しています。練習だけでも結構です。気軽に
お問い合わせください<m(_)_m>



日 刊

ア新東京

NO 755

2011年
11月4日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

なぜ今

郵政改革が必要なのか

窓口でも
一体的なサービスが
提供できるように
なります。



もっています。

郵政民営化によって、郵便局は5つの会社に分社化されましたが、期待された「業務の自由化」がほとんど認められず、分社化ロスにより利用者の不便が出るなど、非効率的な経営を余儀なくされています。

その結果、ゆうちょの預金残高は10年間で約85兆円減少かんぽ生命保険の契約も半減するなど経営に「赤信号」が、と

また、利用者からは「郵便局で不在小包や書留の受け取りができなくなった」などサービス低下の声が増えました。有識者からは「このままでは、郵便局の全国一律のサービスが不可能

なってくる」という心配の声も上がっています。

改革法案が国会で審議

小泉政権時の「民営化すれば郵便局はもつと便利になる」という約束とは正反対の実態が進行しています。そこで、経営の危機的状況の改善をはかり、利便性を向上させ、安定した郵便局の経営を続けるために、国会に「郵政改革関連法案」が提出されました。

内容は、民営化を維持したまま郵便局の分社化を整理し、効率的な「3事業を一体とした」経営体制を作ること、新商品の開発や郵便局の機能を活かしたサービスの高度化を行えるようにすることです。

「国民の資産」とも言える郵便局を守り、救うためにも早期の郵政改革関連法案の成立が求められています。

われわれは99%! 1%が総資産の38%を所有

9月17日に、ニューヨークにおいて「ウォール街を占拠せよ」という呼び掛けに応じて、ウォール街の近くの「ズコッテイ公園」に若者を中心とした数百人が集合しました。

広がる格差に対する不満と少しも反省していない金融界に対する怒りが、占拠運動の動機に結びついています。

最初は少数だった参加者も粘り強い公園の占拠で、ニューヨークから全米へと運動は拡大しました。

ウォール街の占拠者がかかげ



るスローガンである「われわれは99%」には現在のアメリカ社会を象徴している。つまり、アメリカの社会の現状は、わずかな少数派がほとんどの富を所有する一方、残りの圧倒的多数の普通の人々の生活は苦しくな

っています。失業者は9%を超えています。2001年の時点で、アメリカでは人口の1%が総資産の38%を所有しています。現ニューヨーク市長のマイケル・ブルームバーグ氏もその1%の一人です。2010年の世界長者番付で彼は23位にランクされています。その人に99%の人たちの気持ちを理解することが出来るのだろうか。

格差社会は日本も例外ではない。かつては、「総中流」と言われた時代もあったが、派遣など非正規労働者が増え、ワーキング・プアという言葉が象徴するように、働いても働いても低賃金のため貧困から脱出できない層が拡大してきている。彼らから搾り取った富はどこへいったのか。

日 JP新東京 刊	No. 756	2011年11月7日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

年末繁忙乗り切れますか？

5年10年先を見据えた施策を！

ゆうパックは、毎日危険な状態にさらされています。

忙しい時間帯は、LRBパレットがぶつかりながら、搬送されて行きます。それも全部人力による作業です。

平成に入り、各企業が機械化による人員削減、作業効率を求める中、今のオペレーションはいかがなものでしょうか？

まさしく、昭和の戦後復興期のようにです。

以前は、有人車による搬送が中心でしたので、搬送による疲労はなかったものの、今では、搬送で疲れきってしまいます。

正直、有人車による搬送をしているのは、郵政のチルドコンテナだけでしょう。

搬送通路が狭まり、人力搬送が行き交うなかで、本来は、有人車で運べるものが、人力になっている状態です。

そんな状態が続いているので、放置されているのが、有人車の修理問題です。バッテリーがなく使用できない有人車がついに、半数を超えました。予算の問題で片付けることでしょうか？

いま使用できている有人車の交換バッテリーさえありません。

つまり、バッテリー液の補充などのメンテナンスも出来ない状態なのです。近いうちに使用出来る有人車がなくなるかもしれません。

ゆうパックは、人力に頼る作業が多いのはわかります。

しかし、無駄な作業の連続で、人員を増やしているのは、いかなもののでしょうか？

3階が飽和状態になると2階に移動させ、作業時にはまた3階に戻す。

こんな光景は、繁忙期には当たり前のように繰り返されます。

パレットも重量物があると、容易には動きません。時として、キヤスターで足を轆いてしまうこともあります。

こんな中で、パレットや人員で飽和状態の繁忙期は何が起きてても不思議ではありません。

現状は、日々の物数をこなすだけで精一杯の状態です。

だからこそ考えたい、新東京の将来を！

5年後、10年後を考えた、ゆうパックの施策を検討するべきではないのでしょうか？

統合後の混乱で奪われた顧客を取り戻す、奪還を旗印にあげていますが、本当ですか？と聞きたい。

本当は、これ以上来てくれるなという気持ちが残っていませんか？

物量を増やすなら増やすオペレーションを想定していますか？

答えは出ています。新東京では無理なのです。

このままでは、社員の士気にかかわります。

どうか、現状でやれやれではなく、きちんとした長期ビジョンを提案していただきたい。

社員全員が、自信を持って、ゆうパックをお客様に勧められるように、活気のある前向きな新東京支店になりますように今後を考えていきましょう。

日 刊	JP新東京	No.758	2011年11月9日(水)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

急げ！郵政改革 郵便局を救え

「郵便局ファンの会」と「JP労組」で制作をした番組「急げ！郵政改革-郵便局を救え」が10月30日(日)午後2:30~BS11(イレブン)で放送された。郵政グループ内の「絆」だけではなく、国民との「絆」の大切さ、そして「郵便」が国民の財産である事を再確認できる内容の番組で、皆さんはご覧になられたらどうか。

10月21日に緊急シンポジウム「急げ！郵政改革-郵便局を救え」が東京で開催され、その模様も番組内で放送、JP労組新東京支部としても、より多くの方々に知ってもらい、ご覧になって頂くべく、支部組合役員及び組合員の助勢により、支部内だけでなく駅や戸口配布などを積極的に施行し、活発に番宣PRを行った。

「もっと郵便局を便利にできないものなのか。」

そんな国民の声に応える為にも、郵政改革法案の国会審議を着実に進展させる必要があるが、政府が2010年4月に郵政改革法案を国会に提出した後の法案は殆ど棚ざらしの状態になっていた。郵政改革法案は、小泉政権による民営化を大幅に見直す内容であり、日本郵政と郵便事業会社、郵便局会社を統合し、グループを現在の5社から3社体制に再編するものである。郵政民営化は2007年秋、持ち株会社の日本郵政の下に郵便事業・郵便局・ゆうちょ・かんぽの4事業会社が入る形で発足したが、現況、細かい分社化による縦割りの弊害が出ているのも事実である。

例えば配達の遅れを郵便局に問い合わせても、担当は郵便局と別会社の郵便事業会社である為処理が円滑にいかないという事、また震災の際には、避難所へ配達に来た郵便職員が貯金の扱いをできない事に対し、多くの不満の声があると報道された。

郵政改革法案で郵政グループを5社から3社に簡素化し、郵便局でサービスを一体化すれば、こうした問題は解決され、早急な法案の実現が「利用者の利便性の向上」、そして「生産性の向上」にもつながるに違いない。

日本郵政グループトップ陣が26日に記者会見し、審議が停滞している郵政改革法案について、「成立しないと経営の自由度が低く新規事業もできない」と早期成立を訴え、我社の鍋倉眞一社長は「先進国で郵便物数が減少するなか、非効率な経営しかできないとお客さまにも迷惑がかかる」と述べた。

「絆」を守る為にも、郵便を救う為にも、一刻も早く、法案の修正協議や審議に応じる事は必要不可欠なのである。

新東京支部企画教育部**取り組み内容一覧**

現在、新東京支部企画教育部では、様々な行動を実施しています。すでに分会役員から声をかけられた組合員の方々も多数いらっしゃると思いますが、現在取組中の行動を一覧として掲載します。

分会役員が声かけに来た際には、是非ともご理解・ご協力の程よろしく願います。

取組内容	日程	内容
『連合愛のカンパ』への協力をお願い	11/1 ～ 11/30	人道主義の観点から『自由・平等、公正で平和な世界の実現』に向け取り組むものでNPO・NGO団体等の事業プログラムへの支援、及び自然災害等による被災者に対する救援・支援を目的としています。
公正な証拠開示の法制化を求める署名	11/1 ～ 11/25	えん罪事件において、検察官は今も基本的に証拠開示に応じない姿勢をとり続けています。取り調べの可視化、証拠開示を義務づける法制化を求める署名です。ご協力願います。
脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会を求める署名	11/1 ～ 11/30	支部大会決定事項の原発に対する学習の一環として、脱原発と自然エネルギーへの転換を求める署名に参加します。震災以降の福島原発の収束の目処すら未だ見えない状況です。更に、最近では核分裂反応の数値が計測され不安の絶えない状況です。子供や孫の世代に危険な社会は引き継ぎません。ご協力願います。
女性フォーラムカレッジへの参加者募集	11/27	女性組合員限定の集まりです。クリスマスリースを作り、その後懇親会を開催します。小学生以下のお子様も別室でお預かりします。現在、参加者募集中です。詳細は分会役員までお聞き下さい。
第3回フットサル大会	11/13	現在 18名の部員で活動しているFC新東京が東京地本の主催の大会に出場します。まだまだ、部員やマネージャーを募集中です。興味のある方は分会役員まで・・・

報告 1

10月21日からの企画教育部で企画した七ヶ浜ボランティアツアーに参加した1普分会組合員の本間さんから、今回、ボランティアに参加して感じた気持ちを、趣味の工芸で現し支部に寄贈して下さいました。紙面で紹介すると共にお礼の言葉とさせていただきます。

また今回のボランティアツアーに参加して東北の地を再度訪れたいと感じたそうです。大変な行動に参加していただき、そして、力強い抱負もいただきましてありがとうございました。



報告 2 10月2日(日)に旧JPU時代に新東京支部青年部長として組合員のため、仲間のため尽力してきた諸岡厚亘さんが、地元、福島県石川町のホテルで結婚披露宴パーティーを挙げました。田舎ならではの多数の臨席のもと盛大な宴となりました。末永くお幸せに・・・

報告 3 11月6日(日)窓口分会の川越武さんと業企分会の婦美さんが結婚披露宴パーティーを開催しました。10月28日にバリ島で挙式をあげたお二人は、幸せいっぱいの笑顔で私たちにも幸せを与えてくれました。また、婦美さんが習っているフラダンスの上演会もあり情熱的なパーティーでした。お二人とも末永くお幸せに・・・



広報部より・・・

新東京支部広報部では、身近な嬉しい出来事や、お知らせしたいことなどを随時募集しています。よろしくお願ひします。

日
刊

JP新東京

No.760

2011年11月11日(金)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

「みんなでまちをきれいにする運動」に参加しました

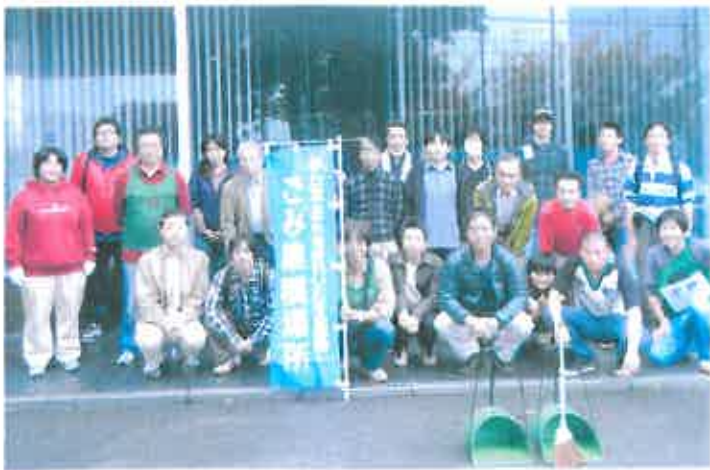
江東区では、地域の環境美化活動の一環として、道路や公園などの清掃を行う一斉清掃「みんなでまちをきれいにする運動」を年2回実施しています。毎回200を超える団体、15000人以上が参加しています。



11月6日は秋の一斉清掃があり、今回新東京支部として参加しました。

前日の天気予報では朝から大雨になるとのことで心配でしたが、日ごろの善い行い(?)が幸いし、前夜からの雨も清掃開始前には止んでくれました。

午前9時半には参加者22名が支店前に集合し、4つのグループに分かれて、支店と新木場駅間の明治通りの清掃にとりかかりました。





ごみは、紙くずやビニール、ペットボトルなどの燃やすゴミと、空き瓶や汚れの酷い空き缶などの燃やさないゴミとを分別して回収していきました。

普段、どのくらいのゴミが落ちているかなどはほとんど

関心がないと思いますが、タバコの吸い殻や空き缶、ペットボトルが意外に多いことにびっくりしました。とくに、新木場に向かって右側の歩道は、普段大型トラックが何台も駐車している場所で、このあたりが最もゴミの量が多かったようです。

午前中いっぱいかけて集めたゴミはキャスター付きのファイバー4台分があふれかえるほどになりました。

私たちが普段利用している道路をきれいにしたことで、気分的に爽快感いっぱいになり、みな有意義な時間を過ごすことができました。



コラム 神話とは…

根拠もなく絶対的事実だと思われている事象を例えて用いる言葉。現実が隠蔽され人々の考え方や行動が誤った方向に固定化してしまった常識である。

(文例) 福島事故で原発の安全性は神話だったと判明した。

2012春季生活闘争 たくさんの組合員の 声を集め様々な討論 集会に持ち寄ろう 11月22日地本春闘討論集会

日 刊 JP 新東京
No.762
2011年 11月15日(火)
日本郵政グループ 労働組合 新東京支部 広報部
03-5606-6784 内線 4353

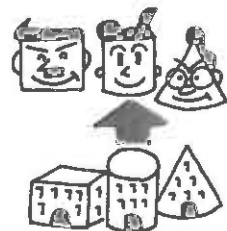
JP労組は、組織結成からこれまでの4年間で「真に組合員の幸せ」を実現するために職場課題等の改善に取り組んできました。現在、郵政改革関連法案の動向や郵便事業再生に向け取り組み、事業や組織の未来を大きく左右する課題に直面しています。

第8回中央委員会が終了してJP労組運動を力強く前進していくことが決定されました。郵便再生「ビジョンバージョン1」については、再生に向けた取り組みも加速させつつ、組合員の

真摯な論議・意見を踏まえ、今後の中央段階の特別労使協議会にて意見交換を行っていくこととなっております。

労使協議で作成した「再生に向けてバージョン1」を、より実現性を持たせ高めるために、聖域なき論議を行っていきビジョンのバージョンアップをはかっていきます。支部においては、現在試行の位置づけで「支店別損益」が支店管理者に示されていますが、郵便再生をはかる立場で労使間の扱いを検討していくこととなっております。

また、2012春季生活闘争については、第8回中央委員



会で決定された春闘方針に基づいて、支部・連協・地本・本部と各層に渡る春闘方針の討議を積み上げて、来年2月に開催される第9回中央委員会でJP労組として方針を決定していきま
す。11月17日に開催される
全国専従者会議、11月22日
に開催される地本春闘討論集会、
12月6日～7日東京各連協の
春闘討論集会などを経て、12
月9日の全国春闘討論集会など
で職場の意見を吸い上げる予定
となっております。

今後、この流れを意識しつつ、
春闘要求を確立していきましょ
う。たくさんさんの組合員の声を集
め、様々な討論集会に持ち寄り
論議を作っていこう。

新東京支部 支部長 下山 薫

書留職場での新型携帯端末導入についての おしゃべり意見…

あれが入ったからと言って簡素化されたものはなにもない
電卓の計算を以前よりしっかりやらないといけない、計算重要
書留「当たり」と言ってもハズしているときがある
本当の数字がわからない、手間食っている
必死になってやっている、統括担当がかわいそう
計算機が壊れている、ばかにしている
「ハズしても便を出してもいい」という意味わからない
仕事が一層ズになっていく、何がわからないか分からない
こんなに手間をかけてどれだけサービスアップにつながるのか
「プラスなんだからあたりだよ」…っていうのはだめでしょう
「ハズしてもいいよ」というのでは犯罪にもつながる
必死になって今までやってきたことはなんだったのだろう
ハズしてもほっておいてある、端末が重い、腕がつる
ハズしてもだしていいってへんじゃないの
親機の使い方は何にも教えてもらっていない、使いにくい
現場の意見を聞いていない、机上のものだ、端末の機能々々
票札がおかしいため混ざってくる10-17はX。10-13、14-17へ

日 刊	JP新東京	No.763	2011年11月16日(水)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

2011年度第5期アドバンスセミナー開催

— 参加報告 —

2011年11月5日(土)～6日(日)の2日間、執行委員を対象とした研修「第5期アドバンスセミナー」が晴海グランドホテルにて開催され、参加をしてきましたので、報告を致します。

当日会場には、我社の郵便事業会社の執行委員だけではなく、局会社、ゆうちょ、かんぽ、また日本郵便輸送などから、総勢42名の参加があり、中には東海や四国からの参加者も散見され、緊張感のあるオリエンテーションの中、セミナーは開催された。JP労組の運動理念、ワークルール、職場マネジメント、組織基盤の確立を基軸にセミナーは進行し、1日目は先ず、東京地本の山内達也委員長による「基調講演」、コミュニケーションスキルアップと民主的労働運動の理念を整理させるリーダーエクササイズを演習した。中でもリーダーシップを育成させる為の演習エクササイズで、議題についてグループで討議し、その経過を通じて、自分の関わり、他者の動き、グループの変化、合意形成までの過程を注意深く見ながら目標を明確化し、グループの組織化・共有化を図る研修は非常に良い経験となった。

1日目の後半部から2日目の前半部にかけては、地本の企画による支部・分会における組織基盤の確立の一環として、5ステップエクササイズを行った。福利厚生、安全衛生を含む会社におけるコンプレインの議題を①内容②理由・原因③本質、④当面对策・中長期的対策の4部門に分割させ、議題を明確化・対策シートとして壁紙作成し、発表するまでの経緯を5つのステッ

で構築する。42名の参加者を7グループに分け、それぞれのグループで現状の問題点の洗い出しを討議し合い、問題提起をしていきながら、一つのテーマを合意形成していく。明確化・対策シートを使い、限られた時間の中で効率的な同時多発発表型の方式で、模擬職場集会を開催するという生産性の高い実践的なアクションプログラムを行った。労働組合の8大機能における「パートナー機能」、「連帯促進機能」、「サービス機能」、「強調促進機能」の機能強化・促進にとっては、非常に重要なカリキュラムであると感じた。

2日目の後半部においては、郵政未来研究会（みらい研）のアプローチポイント、また今までのアプローチから、追加できる内容をグループで討議し、組織拡大行動と連携した取組みを個々に参加者が発表した。

郵政事業がおかれている現状は、郵政改革法案が成立しないことで両手、両足を縛られているような状態であり、法律の制約から思うような事業展開が図れていない。私たち郵政グループの雇用や労働条件に大きな影響を与えるばかりか、事業存続にまで影響が波及している事は周知の事実である。既存の業務が縮小する「負の構造的なジレンマ」に陥っており、法案の早期成立、また中央政治への継続的な働きかけは、重要である。

政治の動向に左右されやすい郵政事業に従事する私たちにとって、政治基盤強化の必要性はもはや無視できないものであり、民主政治の根幹と私たちが政治に参加している意義を見つめ直す必要がある段階なのではないだろうか。

2日間の宿泊のセミナーの為、1日目の夜は懇親会が催され、地本の専従の方々、また同じ郵便事業会社だけではなく、局会社、ゆうちょ、かんぽ、日本郵便輸送の方たちとの親睦も深められ、他会社からの観点による組合活動や業務の考え方や捉え方も聞く事ができ、有意義な懇親会となった。

また今回のアドバンスセミナーで、グループのリーダーを務めさせて頂き、自分自身の大きなステップアップの糧となっただけでなく、JP 労組の掲げる「心ひとつに」、また「絆」のキーワードにあるように、掛け替えのない仲間達に巡り会えた事を、感謝致します。

日 刊 JP 新東京	No. 764	2011年11月17日(木)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

2011年度 年末年始繁忙期要求書の 早期回答を求めます

新東京支店長
福田 聖輝 様

2011年10月17日
J・P 労組 新東京支部
支部長 下山 薫

2011年度 年末年始繁忙期要求書

はじめに

私達J・P労組新東京支部は、政策会議の開催、さらには第二回支部委員会の開催において、今年年末年始繁忙期における問題点や課題に対する多くの意見集約を踏まえ、下記のとおり要求書を提出するので、誠意ある回答を求めます。

記

【年末始関係】

- 1 年賀室開設に伴うレイアウトは作業実態に応じたレイアウトとし、到着、受入及び差立の一連の流れを考慮したレイアウトを構築すること。
- 2 期間雇用社員の契約更新における65歳以上の契約社員退職により、要員不足は明らかである。年末年始繁忙期を控えて、支店内すべてにおける要員配置の見直しを図ること。
- 3 輸送容器不足は常態化しているところであり、平常期においても直積みでの到着が見受けられる。今年年末期においても、当然のように輸送容器不足が生じることから、輸送容器不足時における対応策を明らかにさせること。
また、最低限必要となる輸送容器の確保及び修理対応を図ること。
- 4 新型区分機への更改、追跡ゆうメール（アマゾン）等の引受により、処理が困難となってきているため、特割カレンダー等の処理においては、他支店へ移管する等、業務救済を行うこと。
また、パケット区分機更改における要員配置計画を明らかにすること。
- 5 年末繁忙期における運送便、レイアウト、要員等早めの提示を行い、業

務研究会の開催については丁寧に周知を行うこと。

- 6 株式関係郵便物の処理対策を明らかにさせること。
- 7 年賀専担者の選出・配置については、事前に情報交換等を図るなど、業務支障のないよう対策を講じること。

【ゆうパック関係】

- 1 宅配便事業統合後、ロールボックス等の輸送容器搬送が非常に手間のかかる作業となっていることから、搬送車両（電動式キャッチパレット）の配備を行うこと。
- 2 ゆうパックサービスレベルの変更後における運送便については、結束対象便への搭載数オーバーによる臨時便対応等により、運送費が発生していることから、運送便の見直しを図ること。
- 3 ゆうパックの取扱においては、サービスレベルの変更等、取扱変更が頻繁に発生する中で、丁寧な周知・取扱の徹底を図ること。

【労災対策関係】

- 1 年末繁忙期における短期期間雇用社員の指導・周知を徹底させること。
- 2 大口引受時での搬送車両（フォークリフト等）の走行等においては、安全全面を考慮し走行時における留意点等、支店内周知・徹底を図ること。

【大学入試繁忙・特殊関係】

- 1 大学入試関係郵便物の送付については、伝送四号便での送付を徹底させること。
- 2 年明けから入試繁忙において、休暇の制限はしないこと。
- 3 継越郵袋の基準を変更するなど、現場の実態に即した対策を講じること。
- 4 地方の統括支店においては、郵袋を分けずに書留郵便物と大学入試関係郵便物の別に把束とし作成すること。
- 5 特殊取扱郵便物の票札の表示については、統一させること。
- 6 各支店では、小郵袋（書留ケース）の作成は行わず、㊤で作成すること。
- 7 大量の書留有証郵袋の到着時、仮上げを中止し個数払いによる処理は、業務上問題があると思われるため、要員の補充を行うこと。また、入試繁忙を含め、短期期間雇用社員を雇用すること。

【その他】

- 1 物品類（ケースカート、薄型パレットケース、常備薬等）の配備・補充を行うこと。
 - 2 発着ホームのオーバースライダーの故障が頻繁している。新棟同等の仕様への更改について検討すること。
 - 3 福利・厚生施設の早期修繕等を行うこと。
 - 4 夜間帯における救急医療体制の整備を図ること。
 - 5 冬季期間中の空調設備の運用計画を明らかにさせること。 以上
-

日 刊
ア
新東京

No. 7 6 5

2011年
11月18日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

戦争体験と新聞報道展

水木しげるさんが

体験し訴えているもの

「ゲゲゲの鬼太郎」「ゲゲゲの女房」などで有名な漫画家・水木しげるさんが、戦争体験をテーマにした作品と当時の新聞報道伝える企画展を開催した。

今、なぜ戦争なのか：：と思いましたが趣旨文を読んで納得しました。

12月8日は、1941年(昭和十六年)日本がハワイの真珠湾を攻撃し太平洋戦争をしかけた日でした。そして今年は70年目だったのです。

戦争と言うと終戦記念日を思い浮かべるのですが、まさに何

百万人も犠牲になる悲劇の始まりこそ12月8日。

言論統制下で戦争翼賛が煽られ、戦争に突入してしまった悲劇の日。あえてその日に焦点をあてている水木さんの気持ちが伝わってくる。

水木さんは太平洋戦争中、南方の激戦地・ニューブリテン島に送られ、全滅に近い多くの戦友を失い、水木さん自身は左腕を失い生き残った。

どこか憎めない「墓場の鬼太郎」の妖怪たちを描き、『ラバウル戦記』『娘に語るお父さんの戦記』『トペトロとの50年』など、彼の過酷な戦場体験。さらに『総員玉砕せよ!』『ダンピール海峡』

『KANDERE(カンデレ)』など、
繰り返し戦争の悲惨さ、不条理、
むなしさを語り続けてきた。

水木さんの描く世界は、忘れることのできない戦友たちの霊と対話ではないかと感じさせられる。

この企画展では同時に、当時の新聞や号外、写真ニュース、黒を白と報道し言論統制をしてきた事実を示す資料などが展示されているという。

しだいに遠い日の出来事となりつつある日本人が戦った日本歴史上最大の戦争。二度と繰り返さないために戦争中何がおこなわれたかを考えていきたい。

横浜の日本新聞博物館

12月25日まで。

入場料は500円。

中学生以下無料。



BOOK

『福島原発の闇』 堀江邦夫・文 水木しげる・絵

スリーマイル島原発事故のあった1979年『アサヒグラフ』に掲載された「パイプの森の放浪者」が『福島原発の闇』と改題されて復刊。

『原発ジブシー』の著者で知られる堀江邦夫さんが、下請け労働者として原発に潜入、その知られざる現場の実態を書き下ろしたテキストに、水木しげるさんが福島原発近くまで赴いてイメージを膨らませて、原発内部の緊張感を圧倒的迫力で描いた。過酷な労働、ずさんな管理態勢…福島原発の現場を初めて表した貴重なルポ&イラストであり、原発労働の現実、原発の本質が一気に理解できる。

2011年末一時金「支給日12月9日以降準備出来次第」
支給月数「1.5月」(基本0.65月、業績0.85月)
=従前の支給割合7:3を確保=

〇年末手当：1.5月

平成23年度年末一時金内訳

社員区分等	年末一時金	計算式																		
一般社員	基本分	(基本給の月額+扶養手当の月額+調整手当の月額+職務段階別等加算) × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 ・在職期間が6か月 0.65月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.39月分 ・在職期間が3か月未満 0.195月分																		
	業績分	(基本給の月額+基本給の月額に係る調整手当の月額+職務段階別等加算) × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 × 評定区分に応じた成績率(下表) <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 150px;"> <tr><td>成績分</td><td>成績率</td></tr> <tr><td>A 評定</td><td>100分の135</td></tr> <tr><td>B 評定</td><td>100分の125</td></tr> <tr><td>C 評定</td><td>100分の85</td></tr> <tr><td rowspan="4">D 評定</td><td>警告</td><td>100分の85</td></tr> <tr><td>減給</td><td>100分の65</td></tr> <tr><td>停職(1か月未満の停職に限る)</td><td>100分の45</td></tr> <tr><td>停職(1か月未満の停職を除く)</td><td>100分の25</td></tr> <tr><td>その他</td><td>100分の75</td></tr> </table> ・在職期間が6か月 1.0月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.6月分 ・在職期間が3か月未満 0.3月分	成績分	成績率	A 評定	100分の135	B 評定	100分の125	C 評定	100分の85	D 評定	警告	100分の85	減給	100分の65	停職(1か月未満の停職に限る)	100分の45	停職(1か月未満の停職を除く)	100分の25	その他
成績分	成績率																			
A 評定	100分の135																			
B 評定	100分の125																			
C 評定	100分の85																			
D 評定	警告	100分の85																		
	減給	100分の65																		
	停職(1か月未満の停職に限る)	100分の45																		
	停職(1か月未満の停職を除く)	100分の25																		
その他	100分の75																			
高齢再雇用社員		(基本給の月額+調整手当の月額+職務段階別等加算) × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 ・在職期間が6か月 0.79月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.474月分 ・在職期間が3か月未満 0.237月分																		
期間雇用社員	パート契約社員(月給制)	基本賃金額 × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 ・在職期間が6か月 1.5月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.9月分 ・在職期間が3か月未満 0.45月分																		
	パート契約社員(時給制)	基本賃金額 × 1日の勤務時間数 × 対象期間における1か月平均実働勤務日数 × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 ・在職期間が6か月 1.5月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.9月分 ・在職期間が3か月未満 0.45月分																		
	月給制契約社員	基本賃金額 × 0.3 × 2.0																		
	時給制契約社員	基本賃金の合計額 ÷ 6 × 0.3 × 基準日以前6か月の実働勤務日数に応じた定める割合 ・実働勤務日数が120日以上 1.3(※1) ・実働勤務日数が100日以上 1.2 ・実働勤務日数が80日以上 1.1 ・実働勤務日数が80日未満(※2) 1.0 ※1 1日の正規の勤務時間数が8時間である者は1.8 ※2 実働勤務日数が60日以上ある者に限る																		
短時間社員		(基本給の月額+調整手当の月額) × 基準日以前6か月の在職期間に応じた定める月数 ・在職期間が6か月 0.90月分 ・在職期間が3か月以上6か月未満 0.54月分 ・在職期間が3か月未満 0.27月分																		

1 普分会忘年会開催

東陽町「つきじ市場食堂」で大いに盛り上がる

寒さが増してきた年末繁忙前の11月18日金曜日、東陽町にある「つきじ市場食堂」にて2011年度1普分会忘年会が開催されました。

第1普通郵便課は年賀繁忙があり、12月の忘年会シーズンには開催できない事情もある中、

総勢30名もの職場の仲間を集まって頂き、日頃の疲れを発散するかの如く飲んで・食べて・おおいに騒いだ2時間となりました。

また、10月1日より正式に元特殊計画が1普分会所属となりましたが、今回は松田さん・穴倉さんの2名の方に参加して

頂き、計理・計画・現場の垣根無く親睦を深める事が出来たのではないでしようか。

高橋(卓)書記長の司会進行のもと、木村(政)分会長の挨拶がありました。2件の署名活動協力のお礼、これから取り組む「連合愛のカンパ」への協力をお願い。年末の年賀繁忙に向けて、一致団結して取り組もうとの挨拶の後、乾杯の音頭で宴が始まり、中締めでは、計画から金子さんを含む参加者3名の自己紹介もあり、普段交流の無い現場の人にも顔と名前を覚える機会ができたのは良かったと思います。

締めには、来年3月で定年を

向かえる阿部（員）さん、青木さんに締め挨拶を頂き、青木さんの号令のもと皆で「団結頑張ろう！」と大きな声で拳を突き上げ、年末年始の年賀繁忙に向け心をひとつに頑張つていこうと誓いあいました。

また、今回の忘年会には参加出来なかった方からカンパを頂きましたので、この場を借りてお礼を申し上げます。



2特分会 忘年会のお知らせ 12月11日（日）18時20分～ 場所. 銀座「うおや一丁」

今年も残すところあと一ヶ月とちょっととなりました。寒さが一気に押し寄せてきましたが、二特分会忘年会でパーと盛り上がり元気にケガもなくこの冬を乗り越えていきましょう。毎年恒例の大抽選会で豪華景品をゲットできる…かも！？

会場は、京橋と銀座のちょうど境目にある高速道路の高架下となっています。詳しくは組合役員まで…

日刊

新東京

No.769

2011年
11月25日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

冷たい風が吹くと 年賀状の季節だなと……

暖かかった秋も過ぎ、一気に寒い冬の気配が押し寄せてきました。

冷たい風が吹くと年賀状の季節だなと思うようになってきました。12月に入れば誰しも年賀状を買うようになるでしょう。

しかし、職場では山の紅葉が

始まるずっと前から「年賀状の販売を」と言われていますので、すでに購入したり販売勧奨したりしているかたも多くいるでしょう。

何年か前までは、客から注文を受けた年賀状や特選ゆうパック営業のなどの商品やカタログを郵送で送ることができました

が、現在ではどういう訳か知らないが郵便で送ってはいけなくなっています。年賀状の注文を受けるのは電話でもできるでしょうが、現物のハガキを渡すのと現金の授受は電話ではできません。

勤務時間中に届けに行ける人は何人かいるでしょうが、だいたいの人は勤務終了後や休日那年賀状を客の所まで持って行きその代金を回収しているでしょう。私は、会社から「営業活動は勤務時間にしましょう」とは一度も聞いたことがないため、休みの日にお客様の所へ足を運んでいます。

では、郵政の営業とはどういうものなのでしょうか。残念な

がら私はどのようなように営業活動したらよいか、一度も教えてもらったことはありません。交通費や諸経費のない営業なんてあるのかも、ちよつと疑問のところ
です。

ただいえることは、年賀状やお歳暮を勤務時間に営業すれば、現場の業務が回らなくなるのは誰の目にも明らかです。要員の補充が全然ないため、現場には人がいない：当然営業には
でられない：会社はそのことを知っていて、社員の良心につけ込んで営業を勧奨しているように
に思えてなりません。

11月、スーパーなどの臨時出張所に年休の制限などして、少ない要員から絞り出すように

派遣しても2〜300枚しか売れないこともあります。

昨年の反省を活かして費用対効果でやっていくといていたような気がしましたが、喉元過ぎれば熱さを忘れる：でしょうか。たくさんの人に年賀状を書いてもらって社会が明るくなり、会社の収益にもなればいいでしょうが、小型物流のゆうパックとは異なり、年賀ハガキの競争相手はいません。

11月に臨時出張所を開設するよりも、街頭でティッシュでも配り「年賀状はお近くの郵便局でお買い求めください」と宣伝した方がよりましたのではないのでしょうか。

（投稿）

医療共済 マイガードに入ろう 加入随時募集中

割安な掛金の医療共済です。補償額が入院1日、3千円、5千円、1万円から選べます。医療に関する保険に加入していない人はまず入っていた方がよい共済です。入院、手術や骨折、1日入院なども対象となります。病気が発見されてからでは加入できませんので、検査を受ける前に加入しておきましょう。深夜勤での疲労の蓄積は思わぬ病気を引き起こします。ぜひとも検討を…。
詳しくは組合役員まで…

日 刊 ア新東京	No. 770	2011年11月28日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

脱原発で自然エネルギー中心の社会を！

全国署名11月30日まで

少し前になるが、3月11日の震災によって破壊された福島第一原発の敷地内に、初めて記者団が入った。防護服に身を固め、線量計を携帯しながらの取材は事故後の生々しさが伝わった。原形をとどめていない原子炉建屋の無残な姿は、水素爆発の凄まじさを物語っていた。収束作業にあたっている吉田所長は、当時の事故発生から一週間が最も危険な状況で「もう死ぬ」と何度か思ったという。一步間違えれば首都圏もやられていたかもしれない。メルトダウンを起こし核を制御できない状態の中、彼らは恐怖と戦いながら核の暴走を必死で食い止めていたのだ。収束作業に追われている今も敷地内は放射線量が高く、危険な状態だ。今、同規模の地震が来たらと思うとゾットする。

あの建屋からどれほどの放射線量が大气にばらまかれ、海中に垂れ流されたのか。放射能に汚染された瓦礫はどうなるのか。食の安全は大丈夫か。母体や子供の健康にどのような害が生じていくのか。事故前の環境に戻すのに、一体どれだけの時間を必要とするのか。どれも明快な答えは出ていない。原発事故はまだ終わっていないのだ。にも拘わらず、原発再開に向けたきな臭い動きも出てきた。喉元過ぎれば熱さを忘れるとはこのことだ。相次ぐ事故で停止中の高速増殖炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)は、ただ存在するだけで管理・点検費用に一日5500万円以上の税金が消えていく。こちらは高濃度のプルトニウムを生み出すため核兵器に転用できるので、事故が起きたらひとたまりもない。しかも構造上配管が薄いので地震に弱く、活断層が直近にあることが建設後に分かったというお粗末ぶり。私たちは原発に対する無関心から大いに反省しなければいけないし、福島原発事故を風化させてはいけない。核は人類の手には負えないことを自覚し、自然エネルギー中心の社会を目指すことが、被爆国日本の選択する道ではないだろうか。

「あれだけの惨事を引き起こし、収束のめどが立たない今も、多くの政治家は反省もなく原発を稼働させ、国民の命を担保に利権まみれの世界を生き続けるつもりらしい。誰がトップになろうが、国民がこの国をコントロールしなければ、日本は終わってしまう」とは、俳優である山本太郎さんの言葉だ。私たちも声を出そう。まずは署名で行動しよう。この日刊を読んでるあなたに呼びかけます。そしてすべての人たちに。

(あきべえ)

窓口分会の役員を紹介します(*^o^*)

ひと言挨拶♪ 原文のまま

分会長 金沢雄一 いつの間にかに、はめられて分会長にまで、なってしまいました。とりあえず、全力で、適当にやっていきますので、よろしくお願い致します。

副分会長 川合健一 窓口分会の副分会長を務めさせていただくことになりました。窓口分会が少しでも盛り上がるよう、他の役員メンバーとともに頑張っていきたいと考えています。皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

書記長 星名秀哉 4月に窓口の職場に移ってきて半年が過ぎましたが、未だに戸惑いの毎日が続いています。そんな中でも新しい職場の仲間たちと楽しく活動していけたらいいなと分会役員をやっています。がんばります！

幹事 時田直哉 今回、組合の役員を初めてやらせていただきます、時田直哉です。これからは他の役員先輩方からいろいろとご指導頂き、組合員の皆様が働きやすい職場になるよう頑張りたいのでよろしくお願い致します。

幹事 小川智勇 このたび窓口分会役員の一員として参加する事となりました。就任後数ヶ月が経ち、分会のレクリエーションなどの行事でお手伝いさせて頂く機会を得て自分にとっても良い経験を積ませて頂いているところです。今後は、組合員の方が職場において、あるいは分会の催し物において心地よい空間作りと更なる仲間としての意識の向上に貢献することを念頭に励んでいきたいと考えております。よろしくお願い致します。

幹事 野崎英明 今回も全力で"パシリ"たいと思います(笑)殴られても蹴られても頑張ります!!よろしくお願い致します。

幹事 平野みか 今回もよろしくお願い致します。

幹事 神矢香苗 女性フォーラムの窓口課代表となれて光栄です。

「弱き者、汝の名は女なり」、とも申しますが、この男性多数の我が社において、女性社員の視点で見た問題点、改善策を取り上げ、職場環境をより良くする場であって欲しいものです。そして、女性の恋愛と仕事、女性の結婚と仕事、女性の人生と仕事、女性の生活と仕事、女性の健康と仕事・・・etc。

皆さんと一緒に考えて行けたらと思います。

幹事 栗原一彰 苦しい時ほど大切なのは、内部の融和とその結束とっております。微力ですが、少しでもその役割が果たせるよう努めていきたいと思っております。

執行委員 吉井亮介 「心ひとつに」暮らせる人を探します。

執行委員 伊丹章 溜め息の職場を笑顔の職場へ変えていこう。みんなで。

日

刊

ア新東京

No.771

2011年11月29日(火)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

2011年度年末年始繁忙期要求書に対する 回答について①

支部は、2011年10月17日(月)に支店に対して今期年末年始繁忙期における要求書を提出したところ、以下のとおり回答がありました。

今期年末年始においては、会社として平成24年度の単年度黒字化に向けて重要な位置付けとされている中、郵便再生に向けて支部としても最大限の協力をしていくことと理解し、今後においても引き続き支店との必要な意思疎通を図ることとしました。

内容については以下のとおり。

【年末始関係】

- 1 年賀室開設に伴うレイアウトは作業実態に応じたレイアウトとし、到着、受入及び差立の一連の流れを考慮したレイアウトを構築すること。

→ レイアウトについては、年賀プロジェクトにおいても効率的な作業レイアウトの検討を行っているところであり、早期に取りまとめ説明のこととする。なお、本年年末年始繁忙は、当支店の施設を最大限活用し、経費の節減に取り組んでいくこととしているので理解のうえ協力されたい。

- 2 期間雇用社員の契約更新における65歳以上の契約社員退職により、要員不足は明らかである。年末年始繁忙期を控えて、支店内すべてにおける要員配置の見直しを図ること。

→ いわゆる期間雇用社員の65歳定年後補充を含む長期ゆうメイト及び年末年始繁忙期の短期アルバイトの確保に向けて、新聞折込や求人誌等に掲載し募集を行っているところである。長期ゆうメイト及び短期アルバイトについて、職場への定着が重要であり、採用時の教育

訓練のほか職場への紹介や声かけ等の受入体制の確立も大切であることから貴支部においても理解の上協力されたい。

- 3 輸送容器不足は常態化しているところであり、平常期においても直積みでの到着が見受けられる。今期年末期においても、当然のように輸送容器不足が生じることから、輸送容器不足時における対応策を明らかにさせること。

また、最低限必要となる輸送容器の確保及び修理対応を図ること。

→ 輸送容器の不足については、ロールパレットケース、ロールパレット及びLRBの不足の現状を本社・支社に日々報告し、地方・管内からの回収、確保に努めてきたところである。また、新たにケース増となるものである。なお、輸送容器の修理についても可能な限り対応することとしている。

- 4 新型区分機への更改、追跡ゆうメール（アマゾン）等の引受により、処理が困難となってきたため、特割カレンダー等の処理においては、他支店へ移管する等、業務救済を行うこと。

また、パケット区分機更改における要員配置計画を明らかにすること。

→ 現状の施設の有効に活用のごこととしている。またパケット区分機の更改に伴う適正な要員配置、作業能率の向上に努め、区分機の有効活用を図っていくこととしている。

- 5 年末繁忙期における運送便、レイアウト、要員等早めの提示を行い、業務研究会の開催については丁寧に周知を行うこと。

→ 年末年始繁忙対策の内容について、業務研究会等で丁寧に周知を行っていくよう配意のこととする。

- 6 株式関係郵便物の処理対策を明らかにさせること。

→ 株式関係郵便物について、計画取扱数は前年並みを想定し、関係会社様との打合せによる差出情報の入手や処理体制（レイアウト、分室の稼働、短期ゆうメイトの確保）を整えることとしているので理解の上協力されたい。

* 次回日刊へ続く。

2011年度年末年始繁忙期要求書に対する 回答について②

【年末始関係】

7 年賀専担者の選出・配置については、事前に情報交換等を図るなど、業務支障のないよう対策を講じること。

→ 年賀専担者については、経験等を考慮し選出を行ったところである。

【ゆうパック関係】

1 宅配便事業統合後、ロールボックス等の輸送容器搬送が非常に手間のかかる作業となっていることから、搬送車両（電動式キャッチパレット）の配備を行うこと。

→ 宅配便事業統合以降、取扱うパレット等の種類が増えていることからパレット作業のあり方について検討していく必要があるものと認識しているところである。なお搬送車両の増備については困難であるが、状況に応じて支店内の車両の有効活用を検討することとしたい。

2 ゆうパックサービスレベルの変更後における運送便については、結束対象便の搭載数オーバーによる臨時便対応等により、運送費が発生していることから、運送便の見直しを図ること。

→ 運送費削減プロジェクトにおいて、臨時便が発生している実態の把握・取りまとめを行っており、支社に対して情報や意見を報告し、11月1日に既定便化、車種上げ対応をしたところである。今後もきめ細かく対応のこととする。

3 ゆうパックの取扱においては、サービスレベルの変更等、取扱変更が頻繁に発生する中で、丁寧な周知・取扱の徹底を図ること。

→ 安定したお客さまサービスの提供は、品質の維持管理の面から重要であり、取扱いの変更に関する社員・ゆうメイトへの周知、取扱いの徹底については今後も配意していくこととする。

【労災対策関係】

1 年末繁忙期における短期期間雇用社員の指導・周知を徹底させること。

→ 繁忙期間中の労働災害発生ゼロを目指して、短期アルバイトに期間中、安全に働いてもらうため、採用時訓練において、災害防止関係資料やDVDによる座学のほか、現場でパレットを用いた指導を行っているところであり、日々のミーティングでも注意喚起を行っていることとする。なお、本年末年始繁忙は、支店の施設を従来にも増して有効に活用していくことから、レイアウト等の変更になるため、作業中の不安全行動が発見された場合、労働災害防止の観点から管理者等からその都度、注意指導していくこととするが、貴組合においても理解の上、協力されたい。

2 大口引受時での搬送車両（フォークリフト等）の走行等においては、安全面を考慮し走行時における留意点等、支店内周知・徹底を図ること。

→ 有人牽引車やフォークリフト等の安全な作業に資するため、理解度チェックを実施したところである。繁忙期においては、業務量増に伴う作業スペースの変更やアルバイトの雇用増もあり、平素よりさらに安全に配意した運転が要求されるため、労働災害防止のためきめ細かく注意喚起に努めていくこととする。

【大学入試繁忙・特殊関係】

1 大学入試関係郵便物の送付については、伝送四号便での送付を徹底させること。

→ 実態を踏まえて、要請していくこととしたい。

2 年明けから入試繁忙において、休暇の制限はしないこと。

→ 入試関係等重要な通信の取扱いを行う時期でもあり、業務上必要な要員は確保していくので理解の上協力されたい。

次回日刊へ続く。